W7章　実体の分類Ⅱ（肯否） …… 97
W7.1　肯定・否定1・否定2　(98)
W7.2　格を表示する・しない　(99)
W7.3　肯定・否定との関係…5種類の客体　(100)
［1］　A型客体～E型客体　(100)
［2］　A型客体～E型客体の構造　(101)
W7.4　A型客体　(102)
W7.5　B型客体　(103)
W7.6　C型客体　(104)
W7.7　D型客体　(105)
W7.8　E型客体　(106)
「Ø2格」とは　(106)

質問の解答例 …… 111
W1章　構造形成に働く5つの力　(112)
W2章　格　(113)
W3章　格表示の歴史　(115)
W4章　「の」の拡張5段階　(120)
W5章　「の」の9相　(124)
W6章　実体の分類Ⅰ（形式）(129)
W7章　実体の分類Ⅱ（肯否）(132)

あとがき　(135)
本書を読んで答えられるようになったこと　(136)

コラム目次

コラムW1　「日本語構造伝達文法」の誕生と発展　(48)
コラムW2　一部の「までに」は格か　(50)
コラムW3　国語文法は伝統芸能？　(82)
コラムW4　「もっと右」の構造……「もっと」は「右」を修飾？　(107)
コラムW5　「副詞」とはどういうものか　(108)
コラムW6　身体と表現 ― 構造と表現　(110)

コラムW1

第 41 章，B，Cあとがき

「日本語構造伝達文法」の誕生と発展

「日本語構造伝達文法」はどのようにして生まれたのですか，と聞かれることがあります。これは，この文法に関心を寄せてくださる方の当然の疑問だと思いますので，ここに簡単に答えておきます。この文法は今泉の体験とともに生まれたものなので，その体験を述べることになります。(第 41 章，B，Cあとがき参照)

[北園高校・東京外国語大学]

私は 1948 年 5 月に生まれました。父は大工でしたので，私は都立北園高校の生徒になってからは，よく仕事を手伝いに行きました。父は私が大学へ進学することは特に望んでいなかったようです。しかし，私が東京外国語大学受験を望んでも反対はしませんでした。国立大学なら行ってもよいということでした。

高校の第2外国語としてロシア語を学習したという理由でロシア語学科を受験しましたが，不合格。翌年モンゴル語学科に入りました。学部・大学院を通じて，モンゴル語はもちろん，ロシア語，中国語，朝鮮語をはじめトルコ語，チベット語，ヘブライ語等を勉強しました。また，はじめは文学を志望していましたので，西洋の古代哲学や，キルケゴール，ルソー，デカルト等々の読書もしました。

学部のゼミは哲学研究のゼミで，カントの『純粋理性批判』の手ほどきを受けました。卒業論文はルソーの『エミール』中の「サヴォアの助任司祭の信仰告白」についてでした。これは，人間の心・思考には天与の法則がある，というもので，カントに大きな影響を与えました。もちろん私の研究の大原則ともなりました。

学部には5年間在籍しました。学生運動ということもありましたが，大学に入って自由に好きなことを思いっきりできる勉強が，とてもおもしろかったのです。

[大学院・日本語構造伝達文法の誕生]

専攻したのがモンゴル語で本当によかったと思います。文法が日本語と似ているだけに，「国語」での伝統的な「かな」による文法に疑問が持てたからです。

日本語の「は」がモンゴル語の「ニ」，朝鮮語の「ウン(ヌン)」に機能が似ていたので，「格」と「は」の関係について考えることが日本語研究の入り口になりました。

また，大学院に入って間もなく，集合の図示法にヒントを得て，深層構造を立体モデルで示す方法を思いつきました。この深層構造は，日本語が口から発せられる前の段階として，頭の中に想定できるものです。

大学院には モンゴル文学を研究するつもりで入ったのですが，半年あまりで日本語研究に転じたわけです。修士論文は「日本語構造文法」というものでした。

こうして，「日本語構造伝達文法」の基礎が生まれました。

[日本語教師，そして杏林大学教員へ]

日本語の研究を続けるために，職業として日本語教師の道を選び，モンゴル，パキスタン，スペインで9年間，勉強しながら日本語を教えました。パキスタンではウルドゥー語，スペインではスペイン語を知りました。その後，杏林大学で教職に就き，本格的に研究をし，日本語構造伝達文法を充実・発展させました。

表コW1-1　今泉の略歴　　年齢は事項発生時の満年齢

西暦	年齢	事　項
1948	0	5月に生まれる
1964	15	都立北園高校入学　第2外国語としてロシア語を学習　ESS部員
1968	19 ｜ 24	東京外国語大学モンゴル語学科入学／モンゴル語，ロシア語，中国語，ヘブライ語を学習／西洋古代哲学，ルソー，カント，キルケゴール等を勉強／卒業論文は「サヴォアの助任司祭の信仰告白」
1973	24 ｜ ｜ 26	同大学大学院入学　朝鮮語，チベット語，トルコ語等学習／ 集合の図示をヒントに，立体的な日本語の構造モデルを思いつく／ 大学院の研究内容をモンゴル文学研究から日本語文法研究に変更／ 修士論文は「日本語構造文法」／　　修了後は学習塾等講師
1978	29	国立国語研究所の日本語教育長期専門研修受講（1年弱） 日本語教師になる　　国語学会，日本言語学会等で研究発表
1980	31	モンゴル国立ウランバートル大学で日本語教員（1年間）
1981	32	パキスタン・在カラチ日本国総領事館で日本語教育（4年強）
1986	38	スペイン公立マドリッド・アウトノマ大学で日本語教員（3年強）
1990	41	杏林大学 外国語学部 日本語学科 で教員になる（24年間） 以後，学部紀要に「日本語構造伝達文法」の研究論文を毎年発表
1998	49	研究休暇で1年間，韓国・高麗大学の客員研究員となり研究・執筆
2000	51	『日本語構造伝達文法』出版
2003	55	『日本語構造伝達文法・発展A』出版
2008	60	博士号取得（杏林大学・学術博士）
2009	61	『日本語態構造の研究－日本語構造伝達文法 発展B－』出版
2014	65	『主語と時相と活用と』（日本語構造伝達文法 発展C）出版 杏林大学定年退職　（退職後も研究，趣味は歌謡曲の練習）
2015	67	『日本語のしくみ(1)』（日本語構造伝達文法 S）出版
2016	68	『日本語のしくみ(2)』（日本語構造伝達文法 T）出版
2017	69	『日本語のしくみ(3)』（日本語構造伝達文法 U）出版
2018	70	『日本語・中国語・印欧語』（日本語構造伝達文法・発展D)共著出版
2019	70	『日本語のしくみ(4)』（日本語構造伝達文法 V）出版
2020	71	『日本語のしくみ(5)』（日本語構造伝達文法 W）（本書）出版

コラムW2

一部の「までに」は格か

「まで」は元からの格ではなく，元来「真手（まて）」という名詞だったようです。それで，4つの機能が持てることになりました。①格，②小円筒，③包含実体，④相対化描写詞　としての4機能です(W3.10)。

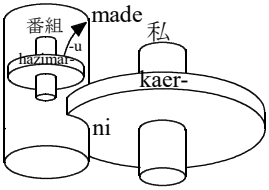
ここで問題になるのは，p.43 の③包含実体の例文です。

番組が始まるまでに帰る

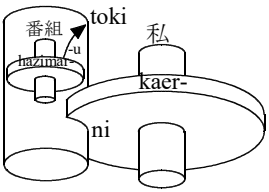
構造は下左図のようになります。もし，この文が

番組が始まる**とき**までに帰る

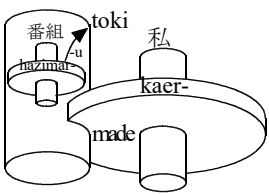
となったらどうでしょうか。「とき」も包含実体です。構造は下中図のようになるはずです。これでは made の置き場がありません。ni の場所に made を置くと，意味が分かりにくいです(下右図)。



図コW2-1　made-ni



図コW2-2　toki-ni

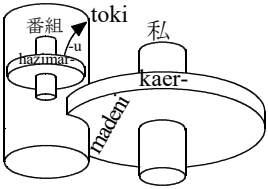


図コW2-3　toki-made

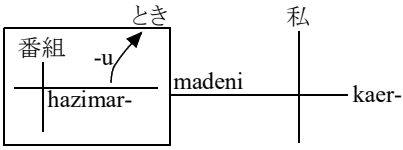
それで，「までに madeni 」を 1 つの格とするべきなのではないかということになります(下両図)。意味は，「まで」と「に」の意味から，このようになります。

ある時点，ある位置に至る時間・空間的長さの中において行為する。

この例の場合は，「番組が始まる前に帰宅する」の意味になります。



図コW2-4　toki-madeni



図コW2-5　toki-madeni

つまり，「まで made 」が格詞としてしか考えられない場合に「までに madeni 」とあれば，これは madeni を1つの格詞とみなすほかない，ということです。

・元来名詞であった「から」も，格と包含実体になりました（p.41)。
・「へと」「にと」は，いずれも，格の重複です（「答W3-16 」)。

コラムW3

国語文法は伝統芸能？

8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
奈良	平安				鎌倉	室町			江戸			現代	

……素朴な言語認識……

…歌の「てにをは」…

語の類別
「てにをは」
活用
語句の照応

現代的
文法研究

構造

現代的文法研究　今日私たちが国語文法と称しているような文法の研究は，江戸時代の諸研究をふまえて，明治時代から始まっています。明治時代以降，多くの文法家が出て，理論的研究をしてきました。その中から何人かの大文法家が出て，研究に大きな影響を与えました。

かな文法　しかし，その研究は江戸時代の研究をふまえていたので，いずれも「かな」を用いての研究でした。「かな」での研究では音素（a, k, s など）は単位とならず，拍（あ a, か ka, し si など）が単位となります。「読む」は yom-u と分析するのが正しいのですが，実際は「よ−む yo-mu 」と分析され，「よ yo 」が語幹で，「む mu 」が「終止形語尾」であるとされます。すべての国語辞典がこのように扱っています。(私と同じくこれを恥ずかしいと思う日本人は何人いるのでしょうか。)

国語文法は素晴らしい文法？　すべての大文法家の学説は「かな」を用いているため，言語学とは異なる日本語独特の珍妙な文法になっていますが，国語学者は，日本語には言語学とは別の優れた国語文法があると錯覚し，信じきっています。（ただし，日本では，私の印象ですが，言語学者のほうも，競ってアメリカ等の新理論を導入しようとするばかりでした。その理論がどれほど日本の文法理論に貢献したのかは結果で知ることができます。）

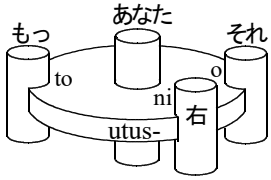
記述のみで，説明はしない　現在のほとんどの国語研究者は，大文法家の学説を大事に守っています。その学説の枠内で，記述的に研究を行うばかりで，説明的な研究はしません。日本語が「どう」あるかの研究はしますが，「なぜ」そうあるかの研究はしません。できません。かなの「拍」が単位なので，自由度がないのです。

国語文法は伝統芸能？　「国語文法」は科学ではなく，いわば「伝統芸能」です。科学なら，法則を発見すべく，方法を考え，体系的知識を求めたはずです。そうではなく，伝統芸能だからこそ，師匠の芸を尊重し，芸を修正しても師匠の意趣を逸脱しないものとしました。家元を代々正統的に受け継ぎ，守ってこそ，立派な弟子なのです。自身も権威に守られ，権威を示すことができます。文法は科学であり，伝統芸能ではないはずなのに，研究者の意識は伝統芸能的です。

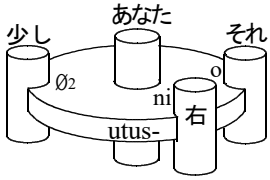
コラムW4

「もっと右」の構造……「もっと」は「右」を修飾？

「**もっと**右」と言えば，「それをもっと右に移しなさい。」の意味でしょう。その意味を表す構造全体を相手に伝えるために，構造の一部をことばで表現しているわけです。(下左図。動詞は「寄せる」「動かす」等の可能性もあります。)



図コW4-1 もっと右



図コW4-2 少し右

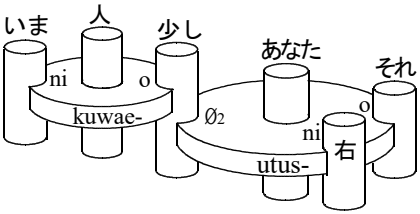
「**少し**右」と聞けば，「それを少し右に移しなさい。」だと判断します(上右図)。

この捉え方が正しいとすれば，「もっ-to 」や「少し-Ø2 」は，「右」ではなく，動詞の「移す utus-」を修飾していることになります。(参考:「右に少し移しなさい。」)

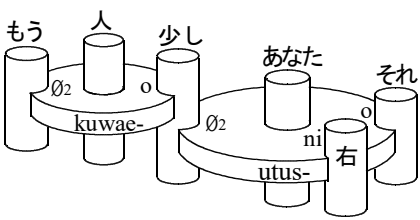
「**もう**少し右」と言うこともあります。それで気になるのは，「もう」や「もっ」というのは何であるのかということです。……これは古語辞典などから，万葉集の時代の「今，いま」であったものであることが分かります。

いま-Ø2　→　ま-Ø2　→　もう-Ø2　→　も-Ø2　→　もっ-to
ima-Ø2　→　ma-Ø2　→　mau/moo-Ø2　→　mo-Ø2　→　mot-to

「**いま少し**右」ということであれば，次のような構造になるはずです(下左図)。



図コW4-3 いま少し右，[いまに加える少し]右



図コW4-4 もう少し右，[もう-Ø2 加える少し]右

「**いま**少し」というのは「いまに少しを加える」「いまに加える少し」という構造を持つでしょう(「いま」は「いまの状態」の意味)。次の例も同様に考えられます。

いま一度，いま一層，いま一息，いま一つ，いま2日

ところで，「もっと右に」とは言いますが，「*もう右に」とは言いません。このことから，どちらも元は「いま」であっても，「もっ-to 」の構造は図コW4-1となり，「もう-Ø2 」の構造は図コW4-4となっていることが分かります。

問W7-9「もっとたくさん」の「もっと」は「たくさん」を修飾していますか。

コラムW5　　2.7

「副詞」とはどういうものか

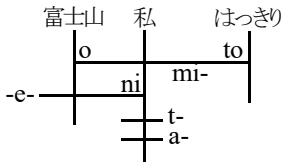
国語文法には「副詞」とよばれる品詞があります。「副詞」は，構造で見るとき，どういう形として存在するのか，ここに示したいと思います。

「副詞」とは，国語学によれば，自立語で活用がなく，主語・述語にならない語で，主に用言を修飾するものですが，他の副詞，名詞を修飾するものもあります。

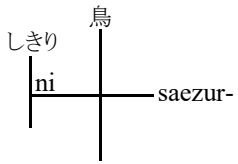
3つに分類されることがあるので，これに従います。

情態副詞　あとの語の意味を，動作・状態において詳しく説明する。

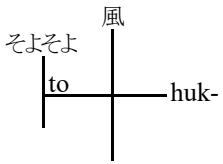
(1)　富士山がはっきり見えた。　（「はっきりと」でもよい。）
(2)　鳥がしきりにさえずる。　（「しきり」とは言わない。）
(3)　風がそよそよと吹く。　（「そよそよ」でもよい。）



図コW5-1 はっきり(と)見えた



図コW5-2 しきりにさえずる

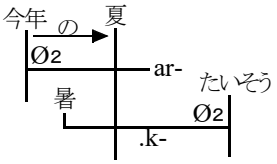


図コW5-3 そよそよ(と)吹く

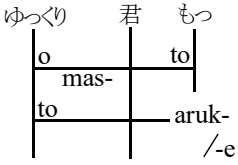
「情態副詞」とは，多くは1つの格にしか立たない実体で，普通実体Eです。格詞が省略される場合とされない場合があります。普通実体Eには擬音語・擬態語も含まれますが，これは to 格にしか立たないものと，ni 格にも立つものがあります。

程度副詞　あとの語の意味を，程度において限定する。

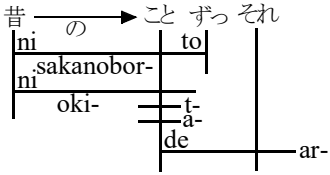
(4)　今年の夏はたいそう暑い。（「たいそう」は「大層」。）
(5)　もっと　ゆっくり歩け。　（他の副詞を修飾？）（「ゆっくりと」は可能。）
(6)　ずっと昔のことだ。　（名詞を修飾？）



図コW5-4 たいそう暑い



図コW5-5 もっとゆっくり



図コW5-6 ずっと昔のことだ

問W7-10 国文法で，他の副詞や名詞を修飾する場合もあるというのはどの副詞？

「程度副詞」は，(4)のような，普通実体Eのうち程度を表すものです。

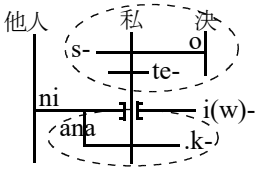
また，(5)のような，他の副詞を修飾するように見える「もっと」のようなものもあります……「もっと　ゆっくり」。「ゆっくり」は to 格にしか立たない普通実体Eです。「もっと」の「も」は「いま」に由来し(p.107参照)，「と」は to 格副詞です。ということは，「もっ to［動詞(連体形)］ゆっくり」のように，間に動詞があるはずです。この動詞として，他動詞の「増す」を考えました……「もっ to 増すゆっくり」。その「ゆっくり」が aruk- の to 格にあると考えます。構造図をご覧ください。

(6)の「ずっと」は名詞を修飾しているように見えます……「ずっと　昔」。しかし，「ずっと」の「ず(ー)」は推移を表す擬態語で，これが to 格に立っています。つまり，普通実体Eです。ということは，「ずっ to［動詞(連体形)］昔」のように，間に動詞があるはずです。……この動詞として「さかのぼる」が考えられます。「ずっ to さかのぼる昔」。その「昔」が oki- の ni 格にあるわけです。構造図をご覧ください。

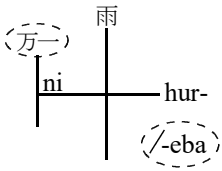
すなわち，他の副詞や名詞を修飾しているように見える「副詞」でも，構造で見ると「普通実体E」であることが分かります。

陳述副詞　否定・仮定・推量など，文末の言い方を決める。

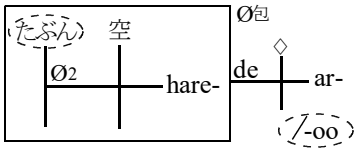
(7)　［否定］　決して他人に言わない。　（「決」は外来語，つまり名詞。）
(8)　［仮定］　万一雨が降れば，中止します。（「万一にも」とも言う。）
(9)　［推量］　たぶん晴れるだろう。　（「多分」はØ2格に。）



図コW5-7 決して……ない



図コW5-8 万一降れば



図コW5-9 多分……だろう

「陳述副詞」は文末の言い方を決めるので，副詞と文末が呼応します。(これを「副詞の呼応」といいます。)「陳述副詞」の例を挙げておきます。

［肯定］必ず　　［否定］決して，ちっとも　　［推量］おそらく，たぶん
［疑問］なぜ，どうして　　［希望］ぜひ，どうか　　［比況］まるで，さも
［仮定］万一，たとえ(……ても)　　［禁止］みだりに，断じて
［反語］どうして，なんで　　［否定推量］まさか(……まい)，とても(……まい)

「副詞」は，表層文法では立てると便利ですが，構造上では，普通実体E，Fの，A型客体～E型客体の5つの型や，動詞のテ形などであるということになります。

問W7-11 構造の上には「副詞」とよばれる要素はあるのですか。

コラムW6

身体と表現 ― 構造と表現

身体で感情表現をする　人間は身体の各部分を駆使して感情を表現します。うれしいときには顔の表情でそれを示しますし，日光浴で気持ちのよいときには両手を広げて息を大きく吸ったりします。

身体存在は感情表現とは無関係　では，その感情の表現に使う身体の各部分そのものは，もとから感情を表すものなのでしょうか。……人が寝ているとき，顔，首，肩，両手，腹，両足等は何らかの感情表現をしているでしょうか。寝ている人を見ると，ふつうは眠っているということが分かるだけで，何かを表現しているとは感じません。身体の各部分はもともと感情を表すものではないようです。

身体は固有の物理的法則を持つ　身体には人間の感情とは関係なく，身体のしくみ，物理的法則があるようです。骨格は人間の感情とは関係なく存在します。また，興奮すると血圧が上がる，などのように，感情が直接身体に作用する場合などは，身体の固有の物理的法則が表れたものと考えられます。

人間は身体の物理的法則に従う　人間はその物理的法則に従うしかありません。たとえば，目は，開閉はできますが，顔の表面上を自由に移動させることはできません。人差し指は内側には曲がりますが，外側に曲げることはできません。両手は胸の前では手のひらを合わせることはできますが，背中の肩甲骨のそばで手の甲どうしを合わせることはできません。たとえ，創作ダンスなどで，その動作である思いを表現したいと切望しても，できないことはできません。

人間は，人間の思いとは関わりのない，身体の物理的法則に従っています。しかし，従っていることも忘れて，動きの可能な範囲内で，身体で気持ちを表現します。

判断や言語も固有の法則を持つ　言語もこれと同じです。人間は自由にいろいろな判断や，言語による表現をしますが，それは，人間の判断と言語の法則のもとでの，法則に従った自由です。

判断は構造を持つ　人間の判断を支えるのは，構造です。この構造は本文法のいう構造で，実体と属性が格で結びついています。構造を形成する法則は，身体の物理的法則と同じように，人間の思いとは関わりなく存在します。

構造は数学のよう　数学には人間の要望とは関係なく，厳とした法則があります。それだからこそ，数学は信頼できるものとして存在します。人間の判断も同じ性質を持っており，人間の意図とは関わりなく形式が成立しています。主格実体を立て，これを属性と結びつける。人間はこの判断形式からのがれられません。

この判断形式と言語表現の関係を構造伝達文法は解明しようとしています。